

2019年 宮古島家族旅行

右城 猛

まえがき

皇太子徳仁親王が新天皇に即位した5月1日が祝日となったため、今年のゴールデンウィークは4月27日から5月6日までの10連休となった。

この大型連休を利用して海外旅行する人が多いようであるが、わが家は5月2日から3泊4日で宮古島へ家族旅行した。右城家、堀田家、明神家合わせて10人の団体旅行である。

宮古島は、伊良部大橋が完成したときから一度は行きたいと思っていた所である。生後7ヶ月の歓大を無理なく連れて行ける距離にあることも決め手になった。

宮古島市は沖縄本島から南西300kmに位置し、宮古島、池間島、来間島、伊良部島、下地島、大神島からなる総面積204km²、人口54,000人の島である。

1943年(昭和18年)に旧日本軍の海軍飛行場として建設された宮古空港の他に、2019年3月に3,000mの滑走路を持つ「みやこ下地島空港」が完成している。

宮古島では伊良部大橋、池間大橋、来間大橋、地下ダム資料館を見学するとともに、プール、海水浴、マリンスポーツ、砂浜でのサンゴ拾いなどを楽しむことができた。



宮古島市

高松空港から宮古島へ

時間に余裕を見て8時に家を出発。連休が中日のためか予想に反し道路は渋滞していない。馬立パーキングエリアと豊浜サービスエリアで休憩したが、10半過ぎには高松空港へ到着。

11時50分発のANA1621便で那覇空港へ。歓大は初めての空の旅。創士は二度目であるが、物心ついてからの飛行は初めてである。わが家の上空を飛ぶ飛行機にまさか自分が乗るとは思ってもいなかっただろう。



休憩した豊浜サービスエリア



機内の創士と歓大



祐希と航希は余裕の様子



宮古空港行きの飛行機を待つ孫たち

宮古島東急ホテル&リゾート

那覇空港から15時10分発のANA1727便に乗り継いで、30分遅れの16時30分に宮古空港に到着した。

宮古島の天候はあいにくの小雨。空港近くの日産レンタカーで2台の車を借りて、「宮古島東急ホテル&リゾート」へ。ホテルの前は、東洋一美しいと言われる純白の砂浜が7キロメートルにもわたって広がる与那覇前浜ビーチ。最高のロケーションに建っている。

ホテルには、オーシャンウィングとコーラルウィングの建物がある。私たちが宿泊したのはコーラルウィングの761号、762号、763号室。半年前からJTBに頼んでいたが、3部屋を確保できたのは4月に入ってから。宮古島は、超人気のリゾート地になっている。半年前でもGWの予約は困難になっていた。

ホテルの夕食は、ホテル内のレストラン「シャングリ・ラ」。ビュッフェ形式のレストランである。

19時30分からはホテル内で東急太鼓チーム「シンカヌチャー」による沖縄芸能エイサーの演舞ショー。シンカヌチャーとは仲間という意味。

食事を終えて部屋に帰ると、JTB高知支店の真田直也支店長からの差し入れの果物が届いた。昨年の台湾家族旅行のときもそうであったが、真田支店長の心配りに感謝。



家族で乾杯



エイサー演舞



エイサーの踊りを練習



航希は恥ずかしがらず積極的に参加



最後に家族で記念撮影



JTB 高知支店の真田支店長からの差し入れ

来間島(くりまじま)観光(5月3日)

今日は、あいにくの曇り空。朝食後に家内とホテル内のガーデンを散策する。

ガジュマルの木が一際目立つ。ハワイ・オアフ島の「この木なんの木 気になる木・・・」で有名な日立の樹と似ているが、日立の樹はモンキーポッド(アメリカネムノキ)。形は似ているが種類が違う。

宮古島から来間島には来間大橋が架けられている。1986年～1995年にかけて施工された橋長1,690mの農道橋である。橋梁形式は航路部が3径間連続箱桁、一般部は3径間連続T桁及び中空床板橋。宮古島の地下ダムから灌漑用水や電気を送る役割も果たしている。

来間島の竜宮城展望台に上がると、来間大橋や対岸の東急ホテル、与那覇前浜ビーチがよく見える。空が曇っているのが残念。

竜宮城展望台への階段の登り口に、「来間島憲法」と書かれた看板が立てられていた。憲法の目的は、「誰もが住みたくなるむら」にすること。住民の義務としては、屋敷内の庭にブーゲンビリアの花とハイビスカスの花を一本以上植え、遊歩道および展望台の清掃を定期的に行うこと。来島者は、如何なる場所においてもゴミを投棄あるいは放置してはならないと書かれていた。素晴らしい取り組みである。

宮古島の家々の屋根や門柱には、沖縄の守り神「シーサー」の置物が設置されていた。

スムージー専門店「AOSORA パーラー」に寄る。インスタ映えする店として有名である。

スムージーとは、凍らせた野菜や果物をミキサーにかけて作った飲み物。一口飲むと血管が収縮し、頭が痛くなった。かき氷と同じ、こんな冷たいものは私には向いていない。

店の裏で山羊が飼われていた。孫たちは楽しそうに餌やりをしていた。今年の正月、岡山の「渋川動物公園」に孫たちを連れて行き、山羊やロバと遊んだ。その経験が役立っているようである。



ガジュマル



門柱の上に設置させられたシーサー



ホテルを出発してこれから観光



スムージーを飲む航希と創士



来間大橋



山羊に餌を与える孫たち



竜宮城展望台から眺めた来間大橋



店のハンモックで遊ぶ創士と航希

地下ダム資料館

この見学は、小学3年生になった祐希に良い社会勉強になるだろうと考えていた。

宮古島は、サンゴ礁の島である。島尻泥岩層の上にサンゴからできた琉球石灰岩層が堆積し、地表面を石灰岩が風化した土壌「島尻マーヅ」が覆っている。

降雨があるとその50%が水蒸気となって蒸発し、10%は地表面から海に流出する。残りの40%は地下の琉球石灰岩層に浸透する。琉球石灰岩層は多孔質で透水性が高い。島尻泥岩層は不透水層であるので地下水は琉球石灰岩層から海に流れ出る。地下に連続地中壁を施工して地下にダムを作り、地下水を貯めて有効利用しようとするのが地下ダムである。

宮古島市には現在3つの地下ダムがある。地下ダムの試験施工として1977年～1979年に建設された皆福地下ダム、1988年～1993年に建設された砂川地下ダム、1994年～1998年に建設された福里地下ダムである。「畑に水を、若人に夢を」を合い言葉として建設された地下ダムは、約2,400万トンの水源を確保し、8,400ヘクタールもの畑を潤している。

昼食はネットで有名な「丸吉食堂」。名物の「ソーキそば」を食べた。宮古そばに沖縄豚のスペアリブ(骨付きばら肉)をトッピングしたもの。宮古そばは、うどんと中華麺を足して2で割ったような味。正直二度と食べたいとは思わなかった。量は普通のうどんの2倍あり、食べきれなかった。



地下ダム資料館の入り口



琉球石灰岩



地下ダムの概念図



地下ダムの模型



地下連続地下壁の施工の説明模型



地下連続壁を施工するドリル



地下ダム資料館の側にある水位観測所。



ボリュームたっぷりのソーキそば

与那覇前浜ビーチで海水浴

午後になると天気は回復し、15 時頃には快晴になった。ホテルの部屋からの眺めは最高。来間大橋、与那覇前浜ビーチがよく見えた。

孫たちは、夕食までの時間をホテルのプールと白い砂の前浜ビーチで楽しんだ。

祐希は砂浜でサンゴ、貝の化石がある石灰岩を見つけて大喜び。



部屋から眺めた来間大橋



プールを楽しむ堀田家の親子



海水浴を楽しむ孫たち



私たちも海に浸かる



創士もママと海の中



プールの背後はコーラルウィング

伊良部島、池間島観光(5月4日)

3日目は朝から快晴。絶好の観光日和となった。ホテルの部屋のベランダから眺めた景色は絵はがきのような美しい。

孫たちもこのホテルはお気に入りで大喜び。

ホテルの入口にパイナップルのような実を付けた木があった。タコの木。実は堅くまずくて食べられないが、黄色く熟して落下するとこれを食べにカニが集まるようである。



ベランダから眺めた景色



ベランダで遊ぶ孫たち



ホテルのガーデンを散策



ホテル入口のタコの木



ホテルの正面玄関

この日の最初の観光は伊良部大橋。一般県道平良下地空港線の一部として 399 億円を投じて 2006 年～2015 年に施工された全長 3,540m の海上橋である。宮古島側の 2,185m は 32 径間連続 PC 箱桁、航路部は三径間連続鋼床版箱桁 (119m+180m+119m)、伊良部島側の 935m は 14 径間連続 PC 箱桁橋である。

アクアブリッジ(4,384m)、明石海峡大橋(3,911m)、関西国際空港連絡橋(3,750m)に次ぐ 4 番目の長さ。通行料金が無料の橋では日本一長い。

2,000 トン級貨物船の航路とクリアランス、モズクの養殖などへの影響、水深などを考慮して橋の平面線形と縦断線形が決定されたようである。とても優美で、自然とシャッターを切る回数が増えた。平成 26 年度土木学会田中賞、全日本建設技術協会「全建賞」を受賞している。

宮古島側の親柱は、島を代表する英雄「久松五勇士」をモチーフに、5 枚の壁が海を守るように取り囲む形をイメージしてデザインされている。伊良部島橋の親柱は、サシバ(冬に伊良部島にやってくるタカ科の渡り鳥)をイメージしたデザインになっている。

久松五勇士とは、日露戦争の日本海海戦の直前、バルチック艦隊の到来を本土に知らせるため、170km の距離を 15 時間かけてサバニを漕ぎ、決死の思いで石垣島に渡った五人の勇士である。

伊良部島大橋には、新たに開発された耐食鋼が採用されている。宮古島側の袂の金網で囲われた中では、鋼材の暴露試験が実施されていた。



久松五勇士をイメージした宮古島側の親柱



曲線美が素晴らしい伊良部大橋



鋼材の腐食を調べる暴露試験

伊良部大橋を渡って牧山公園へ行った。牧山展望台に向かって森林の中を歩くと、小鳥や蝉の鳴き声が聞こえてきた。日本で一番小さな蝉「イワサキクサゼミ」である。オオゴマダラ蝶もたくさん飛んでいた。

公園内には「豊見氏親墓碑」があり、下記の内容のことが刻まれていた。

『昔、(450年頃)伊良部島と平良の間の海に巨大なサメが現れては人々に危害を加えていた。平良との交通も途絶え、漁にも出られなくなり島民が困窮していた時、伊良部島の主長を努めていた豊見氏親がサメ退治に立ち上がった。先祖伝来の刀を握り締め一人で海に漕ぎ出し、巨大ザメに飲み込まれながらも腹の中をさんざんに割り破り遂に巨大ザメを退治することができたが、力尽きてこの下の浜で息絶えた。島民は氏親をこの地に手厚く葬ると共に、比屋地御嶽に航海の神様として奉った。巨大ザメを退治した刀は今でも氏親の末裔である下地家に保管され、市指定文化財となっている』



オオゴマダラ蝶を捕まえて大喜びの創士



豊見氏親墓碑

牧山展望台から伊良部大橋の展望は、期待を裏切られた。橋からの距離が遠すぎる。牧山公園駐車場から県道に降りる途中から見た景色がはるかに良かった。現在、伊良部島側の橋の袂に、駐車場と土産店を備えた展望台が整備されていた。



長山展望台



長山展望台からの眺望



県道に降りる途中からの眺め

「渡口の浜」に立ち寄る。東洋一と言われる与那覇前浜ビーチよりもっと美しい。サンゴからできた同じ砂浜であるが、前浜ビーチほど締まっておらず、ほどよい柔らかさである。裸足で散策すると気持ちが良いだろうと思った。

伊良部大橋が完成してから観光客が増え、周辺ではリゾートホテルの建設ラッシュが始まり、地価は以前の500倍に高騰している。平良下地空港が完成したことで、伊良部島はこれから急速に発展することだろう。



コバルトブルーの海の色と白い砂浜が美しい渡口の浜

最後に訪れたのは池間島と宮古島を結ぶ橋長1,426mの池間大橋。1998年～1992年に99億円の建設費を投じて建設された連続PC箱桁橋。

池間島側の袂の広場には、実物大のプレキャストセグメントが展示されていた。また、眞栄城徳松（まえしろ・とくまつ）の銅像が設置されており、下記のことが刻まれていた。

徳松は、1911(明治44)年の旧平良町生まれた。28歳の若さで町議会議員に初当選。戦後は米軍占領下の沖縄苦難の時代に琉球立法院議員3期、旧平良市長2期を歴任。卓越した先見性と政治力で宮古の先頭に立ち、産業・一周道路の推進、港湾・漁港整備、上水道組合設立、植物園の造成などを成し、当時、「夢物語」といわれた「池間大橋」構想を掲げ実現へと導き、宮古振興の礎を築いた。55年に宮古毎日新聞社を創設、89年に病没した。

池間大橋の側の砂浜には、5cm大のサンゴがたくさん漂流していた。ホテルのレストランではこれが箸置きに使われていた。砂浜のサンゴが土産になると思うと、拾うのが楽しい。



池間大橋の側の砂浜でサンゴを必死で拾う祐希



眞栄城徳松の胸像



宮古島の方から眺めた池間大橋



プレキャストセグメント



池間島から眺めた池間大橋

宮古島最後の夕食は、初日と同じホテル内レストラン「ジャングリ・ラ」。

20時からホテルの庭で東急太鼓チーム「シンカヌチャー」、琉球国祭り太鼓の23名のメンバーによる沖縄芸能エイサーの演舞ショー、宮古島出身のシンガーソングライター「下地暁」による歌謡ショーがあった。



下地島の歌でエイサー演舞

宮古島まもる君

宮古島の主要道路の道端には、警察官の姿をしたマネキン人形「宮古島まもる君」が立っている。2016年時点で19体あり、兄弟という設定で長男は「すすむ」、次男は「いさお」、そして最後の19男は「つよし」といった名前が付けられている。

超人気で、ホテルや空港などに「宮古島まもる君」のイラストが入ったクッキーやちんすこう、泡盛などの土産物がたくさん売られていた。



宮古島まもる君



来間島のサトウキビ畑

あとがき

今回の家族旅行は天候が心配であった。初日に雨が降ったものの、二日目は曇りで昼過ぎから快晴になった。三日目と四日目も快晴であった。快晴のおかげで、宮古島最大の魅力であるエメラルドグリーンの海の色を三日間も見ることができた。

そして今回の旅行は、土木技術の素晴らしさを再確認するとともに、地下ダム、離島を結ぶ海上橋が人々の生活をこれほどまで変えるものかとかと改めて驚いた。

宮古島の面積は、6島合わせても204km²である。面積は高知市の0.66倍しかないが、可住地面積は172km²で高知市の1.5倍ある。サトウキビしかできなかったこの土地に、地下ダムが建設されてからは、さやいんげん、ゴーヤー、マンゴー、ねぎなどの栽培ができるようになった。地下ダムの効果は驚くばかりである。

宮古島は沖縄の主要な島の中で、もっとも「田舎」であった。観光資源に乏しく、年間の観光客数はわずか40万人程度であった。2019年に伊良部大橋が開通してからは観光客が増え続け、2018年度は120万人になった。観光客が急増し、空前のホテル建設ラッシュになっている。

2019年3月にジャンボジェット機が離着陸できる「みやこ下地空港」が完成したことで、さらに人気が高まり、ホテル開発ラッシュが続くことであろう。下地島に隣接する伊良部島は大人気で、坪あたり2,000円であった土地が、現在は坪あたり100万円で取引されている。わずか数年で地価が500倍に跳ね上がった。

離島を結ぶ海上橋、そして空港が地方を活性化させる効果には驚かされる。

2019年5月6日